

友愛の時代へ：賀川豊彦と現在

小林正弥（千葉大学）

2つの時代：問題意識

- 現代にどうかすか？
- 賀川豊彦：戦前の大恐慌下から出発
- 現在：昨年来の世界的経済的危機
ーネオ・リベラルの思想的崩壊
例：転向（中谷巖）
→新しい経済思想・システムの必要性
- 候補：世界的経済規制
グローバル・ガヴァナンス
新ブレトン・ウッズ

貧困問題

- 賀川：原点
- 現在：世界の貧困問題（地球福祉研究センター）
国内をはじめ、先進国でも貧困問題が
拡大
→「蟹工船」「資本論」への注目など
ソ連崩壊以来衰退していた左翼思想の復活：
これで十分か？

戦争問題と希望の欠如

- 9・11以来の「反テロ」世界戦争
→ブッシュ政権の敗北とオバマ新政権
しかし、戦争は継続
- 「変革」の呼びかけ
思想的に少ない。希望をどこに求めたら
いいのか？ →新しい公共哲学へ

公共哲学

- 公共哲学：日本、そして世界でもっとも注目される学
問的改革運動
- 特徴：学際性・実践性
- 公共性の実現：コミュニティ、「共」
「公＝国家・政府」ではなく「公共＝人々・民」
- 中間団体・自発的結社：NPO、NGO

友愛公共哲学

- その動機：友愛 同胞愛
愛そのものの社会的・政治的展開
- 根拠 超越性・スピリチュアリティ
公共的霊性
- 平和・環境公共哲学 友愛→平和

賀川と公共哲学

- 実践性：多領域性
労働・農業・平和・医療・宗教など
- 学際性：宗教・哲学・倫理学・経済学等々
- 共同性＝協同性＝協働性：協同組合、コワーカー
- 中間団体：協同組合、農民組合等々

友愛公共哲学の先駆者・賀川

- 根拠 (神秘的) キリスト教
スピリチュアリティ
→友愛 brotherhood
- 友愛経済 brotherhood economy
- 平和 世界連邦運動
- 賀川は、友愛公共哲学の先駆者
キリスト教社会主義、ユートピア社会主義

友愛経済

- 市場経済の原理的変革
投機経済・大企業経営者批判 (オバマ)
→公共善経済＝友愛経済
＝市場の友愛化、友愛の動機による
経済
- 経済倫理：CSR (企業の社会的責任)・SRI
(社会的責任投資) など
- マイクロクレジットなど
例：ジャック・アタリ

友愛政治

- 友愛の精神に基づく政治＝公共主義
フランス革命 (自由・平等・友愛)
→友愛の欠落、せいぜい連帯
- 反腐敗、公共善...福祉、環境、平和等々
- 友愛会・労働組合→各種の友愛ネットワーク
初期社会主義・キリスト教社会主義などに展開
するが、急進的運動に批判されて停滞→復興を

新日本・新世界への道

- 新日本：政治の新局面、政権交代の可能性
例：鳩山一友愛社会、友愛主義
友愛革命への象徴的な第1歩となりうるかも
- 新世界：ユートピア思想の再生
賀川 「神の国」運動
→マルクス主義的ユートピアに代わる
友愛世界の理想

参考文献 (友愛公共哲学)

- 山脇直司『公共哲学とは何か』(ちくま新書、2004年)
- 小林正弥「ディーブ・ピースと友愛世界主義」
(小林正弥「千葉眞・小林正弥編『平和憲法と公共哲学』、晃洋書房、2007年)
- 同上『非戦の哲学』(ちくま新書、2003年)
- 同上「近代的学問方法論を超えてー多次元・多位相・多水準の友愛公共学へ」(『公共研究』、第5巻第2号、2008年)

参考文献：友愛経済学

- 小林彌六「新ユートピア経済学」（たま出版、1993年）
- 同上「友愛主義宣言」（たま出版、1995年）。
- 同上「21世紀の新経済学」（文芸社、1999年）。
- 同上「新しい経済学と世界観」（春風社、2001年）。